

県立高校入試改善検討委員会（第4回） 会議録

- 日 時：令和4年5月18日（水）14時00分～16時00分
- 場 所：岩手県民会館第1会議室
- 出席者：佐々木修一 委員長、浅沼道成 副委員長、小山田紳也 委員、菅野祐太 委員、梅津久仁宏 委員、佐々木直美 委員、高橋正浩 委員、佐野理 委員（代理出席：中屋豊 氏）、橋場中士 委員（代理出席：小林智 氏）、岩館智子 委員、大柏良 委員（代理出席：佐藤尚 氏）、八重樫千晶 委員、村上智加子 委員、山田市雄 委員
県教育委員会教育次長兼学校教育室長 高橋 一佳
県教育委員会事務局学校教育室 学校教育企画監 度會 友哉
首席指導主事兼義務教育課長 三浦 隆
首席指導主事兼高校教育課長 中村 智和
主任指導主事 菊地 健、砂沢 剛
指導主事 菊池 敏、小原 博
- 傍聴者：報道4人
- 会議の概要
 - 1 開会（砂沢 主任指導主事）
 - 2 県教育委員会あいさつ（高橋 教育次長）

昨年度は3回の検討委員会を開催し、県内中学校及び高等学校を対象に実施した高校入試に関するアンケートの結果や、県立高校教育を取り巻く状況の変化から課題を整理し、一般入試及び推薦入試の今後のあり方についてご検討いただいた。

これまでの検討により、一般入試及び推薦入試について意見集約が進み、委員会としての提言の方向性が固まりつつあると認識している。

本日は、前回までの検討内容を踏まえて、特に入試日程について検討をお願いしたい。
 - 3 入試改善検討委員会委員長あいさつ（佐々木 委員長）

新年度になり、委員のメンバーも若干変わったところ。昨年度に引き続き、慎重に検討して参りたい。
 - 4 委員紹介（砂沢 主任指導主事）

【委員名簿により委員及び事務局の紹介】
 - 5 議題（進行は、佐々木委員長）
 - (1) 一般入試及び各高校の特色を生かした入試について
[中村 高校教育課長]
【資料1「I 県立高校入試改善の現状と課題、検討の視点等」及び「県立高校入試改善の論点と方向性」、資料2「県立高校入試改善の論点と方向性（概要図）」に

基づき説明】

【菊地 主任指導主事】

【資料 1、2 及び参考資料 2「青森、宮城、福島県の特色選抜に係る志願者等への事前提示資料」に基づき説明】

【山田 委員】

A B C 選抜を組み合わせた複数の選抜方法での選抜は、行わなくても良いということか。

【中村 高校教育課長】

方向性としては、1つの選抜方法で実施し、比率は各高校において設定することと考えている。

【梅津 委員】

論点 2 の 4 ページの推薦入試に関して、弾力化や多様化とは、学校の判断で推薦入試を実施しないことも含めた意味と理解しているが、間違いないか。

【中村 高校教育課長】

その通りである。

【八重樫 委員】

参考資料 3 の「平成 27 年度以降の県立高校入試に向けた改善について」に、今後検討すべきこととして、入学者選抜における特別な支援を必要とする生徒への配慮や支援のあり方が明記されている。この点について、これまでの入試の総括はどのようなものか。

【中村 高校教育課長】

受検生個々の状況に応じて、実施可能な合理的配慮を行っている。現在のところ、対応の状況は概ね良好であると捉えている。

【山田 委員】

論点 1 の割合について再度質問する。学力検査と調査書の比率を各高校一律にすると、学力検査重視で 9 : 1 にしたい学校など、比率にも多様性が欲しいという要望が出ることも想定されるが、どのように考えるか。

【中村 高校教育課長】

多様性への対応と特色ある学校づくりのために、比率を学校が決定できるようにすべきと考える一方で、入試改善検討の視点の (2) のとおり、誰からも分かりやすい制度にするべきという視点もある。受検生にとって分かりやすい制度設計が必要と考えている。比率については、今後検討する。

【山田 委員】

比率について検討の余地があるとすれば、9 : 1 や 1 : 9 など極端な設定については、ある程度制限が加わると考えてよいか。

【中村 高校教育課長】

そのように考えている。

【菅野 委員】

面接は、学校の特色を生かして必要に応じて実施するとしている。今回の入試改善の方向性は、基本的には各高校に判断を任せる方向で進んでいると思う。

県としては入試改善のポイントとして、今後子供たちの伸ばしたい力を示していくことも必要ではないかを感じる。山田委員の発言にあった、「学力検査：調査書等」が9：1ということは岩手県の目指していく学力のあり方ではないと思うので、県としての指針が示されるとよいと思う。

[中村 高校教育課長]

入試の意義等を、どのように示すか検討したい。

[佐々木 委員長]

面接試験における評価の観点の項目等は、今の時点で決まっているか。

[中村 高校教育課長]

現時点では決まっていない。

[佐々木 委員長]

現行の推薦入試について見直し、生徒の多様な学びに対応し、各高等学校の魅力や特色を生かした入試としてのあり方を検討することとしている。

推薦入試について、新しい名称の検討を事務局から要望されているが、委員の皆様の見解を伺いたい。

[菅野 委員]

各学校のアドミッション・ポリシーに基づいて行われることを考えると、「AP入試」などはどうか。中学校の先生方が、高校のアドミッション・ポリシーに関心を持つようになるのではないか。

[梅津 委員]

「推薦入試」とすべきではない。菅野委員の発言の趣旨には賛同するが、アドミッション・ポリシーは、高校に入学する生徒全員に関わるもので、一般入試の生徒にも該当する。「アドミッション・ポリシー」という言葉を強調すると、一般入試の生徒には関係ないと誤解される懸念がある。大切なのは、名称により何らかのメッセージを伝えるということ。事務局で案はあるか。

[中村 高校教育課長]

資料2にある「特色入試」が、案の1つである。

[佐々木 委員長]

他県では「特色化選抜」という名称も使われているようである。各委員からの意見を参考に、事務局で決定していただきたいと思うがよいか。

(異議なし)

(2) 入試日程について

[菊地 主任指導主事]

【資料2「県立高校入試改善の論点と方向性（概要図）」及び資料3「入試日程」に基づき説明】

[小山田 委員]

特色入試のみを受ける生徒は、例えば3月の上旬の2日間での検査となった場合、1日で試験が終わるということか。

[中村 高校教育課長]

その点についても、ご意見をいただきたい。他県では、全員が学力検査を受けた上

で、一般入試と特色入試のどちらかのみを選抜可能な方法で実施しているところが多い。

[菊地 主任指導主事]

細かな制度の決め方次第と考えている。今のところは、多くの生徒はどちらも受けるであろうという前提に立ち、資料を作成して提示している。

特色入試だけを受けられる制度を作るか作らないかについても、ご意見があればいただきたい。他県では、全員が一般入試を受けることとして、加えて特色入試に出願できるという方法で実施している例が多い。

[山田 委員]

3点質問したい。

1点目は、2日連続の試験となった場合、面接も実施する学校については受検生の負担が大きいのではないかと思うがどうか。

2点目は、特色選抜で入学できる割合はこれから決めるのか、それとも、この割合も各高校に任せるのか。

3点目は、両方受検した場合、合否判定はどのように行うのか。

[中村 高校教育課長]

1点目の面接については、受検生の数などを考慮しながら、各高校で検討することを考えている。

2点目の一般選抜と特色選抜の割合については、ご意見をいただきながら検討したい。

3点目の一般と特色の両方で選抜する場合については、選抜の順番は各学校で決定することも考えている。

[小林 氏（橋場委員の代理出席者）]

1日目に一般選抜を行い、次の日に特色選抜の検査を行うことは、確定しているのか。それとも逆になることも可能性としてあるのか。

[中村 高校教育課長]

今の段階では確定していない。

[小林 氏（橋場委員の代理出席者）]

その日程は県として統一するのか。

[中村 高校教育課長]

学力検査の日程については、全県統一したい。

[佐々木 委員長]

学力検査の日程は統一をしないと問題漏洩につながるので、統一しなければならないと考える。

[梅津 委員]

資料1の1ページ目に、「生徒、中学校及び高校教員の入試に係る負担が軽減され、」と書いている。また、資料1の4ページ目には入試日程について、「中学校及び高等学校の負担軽減」と書いてある。教員の働き方改革のため教員の負担軽減は重要だが、高校入試を考えると一番大事なのは、受検生のことであり、実施する側の高校は次である。

現在は3月に高校で教育活動ができる日は、かなり制限されている実態がある。そのような影響を軽くする観点で論点3を進めてもらいたい。

[菊地 主任指導主事]

資料3には、メリットについて記載しているが、まず志願者にとってのメリットを挙げている。

[菅野 委員]

全国から志願者の受入れをしている学校もある。他県に比べて岩手県の検査日は遅く、受検を避けられる傾向がある。2日間にまとめて実施すると他県より検査日が遅く、他県の受検生は受けにくい状況もあると考えるが、この点についてはいかがか。

[佐々木 委員長]

3月上旬では、他県より遅いということか。

[菅野 委員]

例えば、東京の生徒が受検し、3月に不合格となった後、どこの学校を選べばいいのかということになる。岩手県の学校は不合格になることは少ないとはいえ、そのような意見をいただくこともある。先行して全国募集を実施している島根県では、1月下旬の推薦入試で募集している。多くの学校に影響を与える話ではないが検討状況があれば教えてほしい。

[中村 高校教育課長]

現在この委員会で検討いただいているのは、受検者の大多数である本県の中学生の受検の制度についてである。現在、県外からの志願者を受け入れる学校も増えてきているので、その部分の制度設計も必要であると捉えている。入試日程の大枠が決定した後に、検討したいと考えている。

[佐々木 委員長]

種市高校の海洋開発科のように全国でも稀な学科等で、高校が希望すれば岩手県全体で示している標準的な日程よりも、早く特別に行くことも考えてもいいということか。

[中村 高校教育課長]

そういった点についてもご意見をいただきたい。現在、県外受入れを行っている学校は定員を満たしていない学校である。

[佐々木 委員長]

今委員の皆様からご意見をいただいて、まとめなければならないのは、まず大多数の本県の中学生に関する選抜制度についてであり、その他の配慮事項については別途、検討をお願いしたい。

[山田 委員]

論点の入試日程については受検生にとって非常に大きな変更になると思っている。受検の機会が2回から1回になるように思う。

2日間連続で受検した場合、特色選抜まで受けた生徒は1日目の学力検査で不合格になった場合に、リセットされるのか。リセットされて特色選抜だけで、合否判定会議がなされるのか。それとも、1日目の学力検査も選抜の材料となり、合わせて総合的に判断されるのか。

今までの場合、1月の推薦入試の結果は一度リセットされ、3月の一般入試に向けて切り換えることができた。事務局としての見通しについていかがか。

[中村 高校教育課長]

特色選抜を受ける生徒についても、初日の学力検査と2日目の検査も受け、選抜することを考えている。

[菊地 主任指導主事]

一般選抜と特色選抜は異なる配点、異なる検査で実施する。各高校で選抜する際、まずは、特色選抜の検査の成績と配点で合否を決めて、特色選抜で不合格となった受検生と一般だけに出願している受検生を併せて一般選抜で合否を判定することを想定している。

[村上 委員]

各学校の裁量で、2日間連続の2日目に特色選抜や一般選抜の面接を実施するということで理解している。その特色選抜の定員は、今の推薦では10%としているが、特色選抜の場合についても、定員を指定するのか。

[中村 高校教育課長]

そのように考えている。

[中屋 氏（佐野委員の代理出席者）]

先ほどの山田委員の質問と重複するが、例えば特色選抜を募集定員の10%とした場合、まず特色選抜の受検生から10%を選抜する。その後、特色選抜で受検した受検生の中で10%に入らなかった受検生は一般選抜に回るということでよろしいか。

[中村 高校教育課長]

特色選抜を最初に行う場合は、そのようになる。

[中屋 氏（佐野委員の代理出席者）]

選抜の順番は各学校に任せるのか。

[中村 高校教育課長]

その辺りもご意見をいただきたい。宮城県や青森県などでは、学校で順序を決めている。

[中屋 氏（佐野委員の代理出席者）]

もし、一般選抜を先に行った場合、定員の90%を一般選抜で取るとすると、90%を一般選抜で確定し、一般選抜だけ受けている受検生はその時点で不合格となるということもあるか。

現在は、1月の推薦で不合格だった場合、一般選抜でもう1度チャレンジすることができる。それに近いのは、どちらかといえば特色選抜を最初に行う流れの方であると感じたが、そのような理解であっているか。

[中村 高校教育課長]

イメージとしてはそのとおりである。

[山田 委員]

一般入試の合否を先に決めてから、特色選抜を決めるということは、例えば1割を残した状態で特色選抜に入ることとなる。

特色選抜の受検生で残り1割を充足しない場合は、欠員になる可能性があるという

ことになると思うがどうか。

例えば特色選抜を先に行う場合で、定員 10%のところに、定員を超える応募があれば、不合格になった受検生は一般入試に回る。

ところが、一般選抜を先にすると、特色選抜にも出願している受検生が少ない場合、欠員になってしまう可能性がある。

県で、どちらの選抜を先にするかを決めないと、志願倍率が高い学校の受検生に不都合が生じると感じる。

[菊地 主任指導主事]

ご意見をいただいたとおりで、先に一般で 9 割を合格とした場合、運用上、悩ましい部分があると考えている。

一般と特色の順番を学校の判断に委ねるのか、県で決めるのかという点についてもご意見をいただきたい。

[村上 委員]

学力検査を先に実施するのは問題の漏洩を防ぐため、その通りだと思う。

特色は、2 日目に実施するということだが、実施は一般が先で特色が後、合否判定は特色が先で一般が後となることもあるということによろしいか。

[中村 高校教育課長]

そのとおりである。

[梅津 委員]

具体の制度設計はこれからだと思うが、一般選抜と特色選抜が、選抜の区別なのか、出願の区別なのか伺いたい。

つまり、全員が両方の入試に出願し、選抜する側で、これは一般の分、そのあとに特色の分として実施する選抜の区別なのか。

それとも、最初から一般または特色のどちらかしか受検できないこととするのか。このどちらにするかについて想定はあるか。

[中村 高校教育課長]

その点についても、ご意見をいただきたいと思う。

[菊地 主任指導主事]

制度設計は今後になるが、他県では、1 枚の受検票で、どちらも出願する、一般だけ出願する、または、特色だけ出願するという 3 パターンのうち、どれかを選ぶという例もある。

特色選抜だけに出願することを含めるかを、今後、検討しなければならないと考えている。

[小林 氏（橋場委員の代理出席者）]

特色選抜だけに出願する受検生は少ないのではないかな。

特色選抜については、高校が特色づくりを進めた上で、学校がふさわしい生徒を選ぶものだと思う。定員を 10%と決めると、10%とらなければいけない。選抜の順番は特色を先にするのがよいと自分は考えるが、定員については何%以内、あるいは、何%程度とするのがいいのではないかな。このようにしないと各高校の特色選抜の目的から外れた受検生が合格する可能性があるのではないかな。

〔佐藤 氏（大柏委員の代理出席者）〕

選抜の順番は、どちらでも実施は可能であると思う。議論すべきことは、どちらを優先して選抜するかということ。出願する段階で、受検生がどの選抜方法を選択するかであると思う。

複数校を受検することはできなくなるが、複数回の受検は可能であるため、受検機会は現行と基本的に同じだと考える。

中学校にとっては、今までの推薦入試を念頭におくと、特色選抜を先にした方が分かりやすく、生徒にも説明しやすい。混乱を避けるためにも特色選抜を先にした方がいいと考える。

一般のみ、又は、一般と特色を併願の2種類であれば、中学生にとっても分かりやすい。現行と異なるのは、検査を一斉にやるということだけである。

〔佐々木 委員長〕

出願については2パターンで、一般選抜だけ志願するか、それとも一般と特色で志願するか。選抜については、各高校に任せてもいいが、各委員から心配される点が出されたとおりのため、特色選抜を先にした方が、中学生にも分かりやすい。

委員会の意見としては、出願のパターンは2通り。選抜の順番は、特色選抜が最初で一般選抜が後とする方が、県立高校入試の趣旨が反映されやすく、多くの方の納得も得られるのではないかという意見にしたいが、これでよろしいか。

〔浅沼 委員〕

今のまとめでよいと思う。ただ、なぜ特色入試をやるのかと感じている。各学校がかなりの部分を決定するので、その過程でこの点について解決してほしい。

また、多くの受検生は一般と特色の両方受けと思うが、精神的な負担が大きくなるのではないか。

どのような特色の検査をするかわからないが、例えば今までのスポーツ推薦のような場合、トレーニングをしなければいけない。その上学力も必要であり、勉強もやり、スポーツや部活動にも取り組むなど、生徒に相当プレッシャーをかける入試制度に変わるのではないかと感じた。

事務局案は、何とか推薦入試のようなものを残そうとしているように感じる。

〔梅津 委員〕

具体的な細かい制度設計はこれからだと思う。

選抜の順序について、どちらを最初にするかの判断を各学校に委ねた場合、募集定員を満たさないが不合格になる受検生が出る可能性があると思うので、制度設計の際に気をつけてほしい。募集定員が100人で95～96人しか合格しなかったが20～30人不合格になっているということがありうるのではないか。

〔佐々木 委員長〕

事務局で本日の意見を集約し、次回の委員会資料に反映するようにお願いします。

以上で議題を終了する。

6 その他

〔菊地 主任指導主事〕

【資料4「提言について」に基づき説明】

7 閉会（砂沢 主任指導主事）